

三木安正記念研究奨励賞受賞

児童の「できる」を増やす支援について

—ABC分析の考え方を取り入れた

リーフレットの作成・活用を通して—



千葉県茂原市立萩原小学校 教諭 鈴木 あやか

1 はじめに

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（文部科学省，2012）が指摘するように、小学校においては7.7%の児童が特別な教育的支援を必要としている現状がある。しかし、現状としては若手教員層の増加や多忙化もあり、特別支援教育への理解は十分とは言えない。そのため、一人一人の教育的ニーズに対応した指導や支援には課題も見られる。特に、問題となる行動については適切な支援が提供できないことにより、児童の不適切な行動の悪化、学習参加の妨げに至ってしまうこともある。

私自身は、特別支援学級の担任を経験し、特別支援コーディネーターとしても意見を求められたり、相談をされたりする立場となった。「この子のこういう行動にはどう対応したらいいか?」「あの子がまたパニックを起こしたのだが、理由が分からない。」通常の学級担任から相談を受けることが増え、私自身もどうしたらいいのだろう、この困っている児童に何ができるだろうと、思い悩むことが多くあった。

そこで、できないことに目を向けるのではなく、行動やその背景を分析して、児童の気持ちに寄り添いながら、「できる」を増やすことで問題となる行動の減少につなげるABC分析を用いた支援を取り入れたいと考えた。ABC分析とは、先行事象（A）、行動（B）、結果条件（C）の枠組みで考える行動の分析方法のことである。ABC分析の良さは、子どもの困った行動に原因を求めたり、事後の対応をしたりするだけでなく、私たち教師の事前の支援により、良い行動を引き出す（その結果、問題となる行動が減っていく）ことにある。

しかし、ABC分析は通常の学校での認知度は低いため、ABC分析を用いた支援についての理解を促進し、児童の適切な行動を増やすための支援の手立てとなる教員向けリーフレットを作成することとした。このリーフレットを活用し、児童の行動や児童への支援について、教員の意識の変容が図られることで、ABC分析に基づく個に応じたよりよい支援を検討することができるであろう。それにより、適切な行動が増え、児童の学校生活の安定や意欲の向上を図ることができると考えた。以下、リーフレットの実際、それを基にした事例について報告をする。

2 ABC分析の理解を促すリーフレットの作成

ABC分析での行動の捉え方、支援の検討について簡潔に分かりやすく伝えるためのリーフレットを作成した。表面（図1）は、導入とABCのフレームについて。中面（図1-3）は、具体例を使ったABC分析の考え方について。裏面（図1-2）は、行動分析・支援デザインシートを用いた事例について、簡潔に示した。

対象児童の学級担任には、支援の検討前にこのリーフレットを読んでABC分析を知ってもらって、事例対象児の行動の分析・支援の検討を行った。

困った行動のなかにも支援のヒントは隠されている!

子どもたちの困った行動・気になる行動の捉え方、解決するヒントを得るためのポイントを検討します。

発達障害の傾向があるAさん。授業中にパニックを起こし、泣き叫ぶことがあります。「授業が中断することもあるし、周りの子へ迷惑がかかってしまう…」Aさんの学習も遅れてしまうし、「担任の先生は困っています。」

「どうしてパニックを起こすのかな? どういう支援をしていったらいいの?」

さて、みなさんならAさんのパニックの原因をどう考えますか?

発達障害の傾向があるし、ああいふ子だから仕方ないかな…

月曜だし、天気も良くないし…気持ちの問題かな

ちょっと待って!!

人の行動には必ず理由があります。その行動の理由に焦点を当て、行動の支援と環境の整備をすることで、子どもの行動を変えていくことができます。その行動の中にも、支援のヒントは隠されているのです。そこで、ここではABCのフレームで子どもの行動をとらえ、支援を考えていきます。

A

→

B

→

C

子どもの困った行動をこの3つのフレームで考えようとする行動の原因、支援の方策を探ることができます。Aさんの事例を基に考えていきましょう。

支援を考える Point!

問題となる行動を無くすのではなく、それに代わる「望ましい行動を引き出すにはどんな手立てが考えられるか?」です。

事例1 (特別支援学級 Bさん)

気になる・問題となる行動
学習に取り組みず遊んでいることがある

行動前の事象(A)	気になる・問題となる行動(B)	行動後の事象(C)
①自分にはできないという思い込み ②休み時間にあたりともめ、気持ちが切り替えられない ③好きなことをやっていたりやめられない	①新しい学習内容に対して抵抗がありやりにくい ②授業開始時に着席していない ③こぼろぎタイムの時間を守れない ④ちがひ時間もしないで遊んでいることがある	・学習をやらずに好きなことをし続けることができる(楽しい・嫌なことを忘れられる)

望ましい行動が起こりやすくなる工夫 (気になる行動を起こりにくする工夫)

①導入にタブレット学習を取り入れ興味・意欲をもたせる
②遊びに行く前に、うまく遊べるよう声を掛けをする(約束の確認)
・授業終了時に次時の学習準備をするよう声を掛ける
・できるだけチャイムで号令をかける
③こぼろぎタイムは自分でできるものにする
④こぼろぎタイムの時間を決め、タイマーを使う

望ましい行動

・嫌がらずに興味をもって学習に取り組む
・座って学習できる時間を増やす

ほめ方・楽しみな活動

・こぼろぎタイム(5分程度)で好きな活動ができる
・チャイムで着席し授業を始めるけれど、がんばりカードにシールがもらえる

起こってしまったときの対応

・本人と話をし、学習開始時の時間を決める(タイマー使用)

事例2 (通常の学級 Cさん)

気になる・問題となる行動
授業に参加せず好きなことをする・離席をする

行動前の事象(A)	気になる・問題となる行動(B)	行動後の事象(C)
①文字を書くことに苦手意識がある ②自分のやりたい活動ではない ③時間を守らず、遅れて行動する	①教科書やノートを出さない・板書をノートに写さない ②自席から離れ、好きな本を読む、手いたずらなど勝手なことをする ③人の目を気にして、集団の中に入らず活動に参加しない	①叱られることもなく学習をやらずに好きなことをし続けることができる ②集団での活動に参加しなくて済む

望ましい行動が起こりやすくなる工夫 (気になる行動を起こりにくする工夫)

①②③1日の予定や1時間の学習内容を個別に本人に分かるように詳しく伝える(視覚で分かるもの)
・本人と話し合い、授業や交渉をし、「これならできる」というものを決める
②自分で選べた別課題をやることを認め、自分で行うようにする
③活動の流れを伝え、参加できる部分だけでも良いことを伝える

望ましい行動

①教科書・ノートを出し、扉を開く
②自席から離れず授業に参加する
③集団の行事や活動に参加する

ほめ方・楽しみな活動

・望ましい行動が見られたときにはそれを認め称賛する
・本人と話し合っ解決したことができた際はがんばりカードにシールを貼る。家庭でも共有し、家庭でも称賛する

起こってしまったときの対応

・もう一度話し合い、違う課題や方法を提案し、選択させる

図1 リーフレット(表面)

図1-2 リーフレット(裏面)

Aさん
授業中にパニックを起こし、泣き叫ぶことがある

何がきっかけで…

先行事象(A)
Antecedent stimulus

授業中に泣き叫ぶ

行動(B)
Behavior

その結果、どのようなことが起こったか

後続事象(C)
Consequent stimulus

まずはAとCの部分をしっかりと観察しましょう。

このことが繰り返された結果、問題行動は増えたのか、減ったのか

見通しの不安 課題が難しすぎる

先行事象(A)
Antecedent stimulus

授業中に泣き叫ぶ

行動(B)
Behavior

課題をやらずに済む(課題から逃げる)

後続事象(C)
Consequent stimulus

泣き叫べば、課題をやらずに済む

どうやらAさんは、課題が難しすぎる場合に、泣き叫んでいることが分かりました。その結果、結局課題をやらずに済んでいます。

このままでは、「泣き叫べば課題をやらずに済む」という誤学習をしてしまい、ますますその行動が増えることが考えられます。

それなら、どうしたらいいのでしょうか…

ここでは、Bの「泣き叫ぶ」に代わる適切な行動を引き出すことを考えてみましょう。

「泣き叫ぶ」に代わる適切な行動…一人で課題ができることや、困ったり分からなかったり場合には教師に自分で伝えることができるというのはいかがでしょうか…

では、その適切な行動を引き出すために、私たちができる支援を考えてみましょう!!

「授業中に泣き叫ぶ」に置き換わる適切な行動

Aへのアプローチ

- ・1時間の見通し・ヒントを与える
- ・代替行動の提示

先行事象(A)
Antecedent stimulus

行動(B)
Behavior

Cへのアプローチ

- ・「がんばったね」称賛
- ・「できた!!」達成感
- ・助けてもらえる成功体験

後続事象(C)
Consequent stimulus

「こうすればいいんだ」
↓
適切な行動が増える

これらの経験を積み重ねることにより、Aさんの「泣き叫ぶ」に代わる適切な行動を増やしていくことで、問題となっていた行動は減少に向かっていきます。

ABCのフレームで考えていくときに大切なこと

☆その行動は具体的ですか? 例:パニック…どんな行動?泣き叫ぶ?黙って固まる?怒る?

☆その行動で子どもが求めていること(行動の原因)は?

行動の原因は、行動の後に何が起きているか(後続事象)で判断します。

【原因探しの流れ図】

問題となる行動によって…

あるものを得ている (正の強化)

- 他者からの注目
- 物や活動
- 感覚

「もっと私のこと見て」
「OOがほしい」
「OOがしたい」

あるものから逃れている (負の強化)

- 他者からの注目
- 物や活動
- 感覚

「私にかまわなくてほしい」
「OOを出さないでほしい」
「OOをしなくていい」

行動をしっかりと観察して原因を探り、支援を考えていきましょう!

図1-3 リーフレット(中面)

3 リーフレットを活用した行動・支援の検討と実際

- (1) 改善したい行動の見取り方と分析方法
通常級の学級は筆者による観察、特別支援学級ビデオ撮影による観察を行う。(5日間)
- (2) 行動の分析・支援の検討
行動分析・支援デザインシート(図2)を用いて筆者と担任により、行動の分析と支援の検討をする。
- (3) 支援の介入による有効性の考察
標的行動の出現を測定し、考察をする。(5日間)

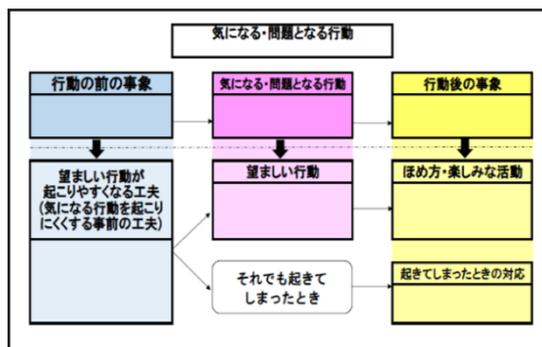


図2 行動分析・支援デザインシート

【事例I】通常の学級 A児(3年 女児)

- ① 標的行動は「授業中の不適切発言・友達とのおしゃべり」である。A児は授業中に大きな声で全く授業に関係ないことを話す、それに友達が反応してどんどん話が広がってしまう、問題の答えを勝手に言うってしまうなどの行動が非常に多く、注意をしても全く効果がなく担任も困っていた。分析方法は1日2単位 筆者による行動観察(事象記録法)を行った。
- ② 行動の分析と支援の検討(図3)・具体的な支援

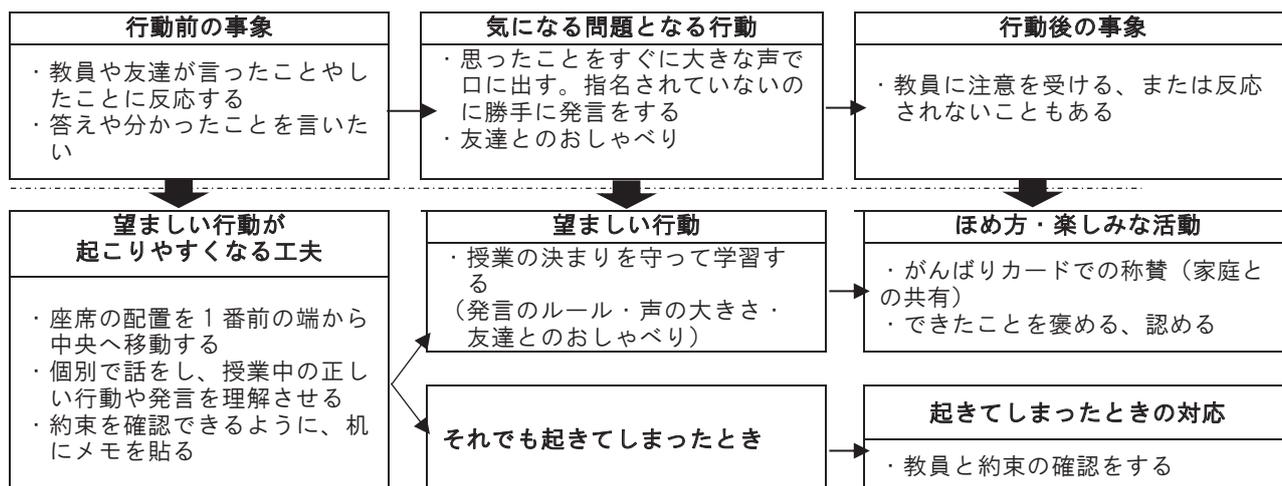


図3 A児の行動分析・支援デザインシート

A児の実態・観察を基に、デザインシートを用いて担任と筆者で支援の検討を行い、具体的な支援は担任が行った。まず、A児には社会的スキルや学校生活スキルの不足が見られたため、担任がA児と個別で話をし、授業中は手を挙げて発言すること、他の人が話しているときには静かに聞くことなど、正しい発言の仕方やルールを具体的に示した。声の大きさについても、「今のAさんの声の大きさは10段階のうちの8だよ。授業中は3くらいの声の大きさでいいんだよ。」などとA児に伝える方法で話をした。また、A児は担任との関わりを求めており、褒められたい気持ちも強いので、がんばりカードを取り入れた。しかし、A児は周囲の友達からの目を気にするため、がんばりカードの記入やできたことを褒める際はできるだけ休み時間などに個別に声かけをするようにした。がんばりカードはA児の意欲持続を考え、1週間



図4 A児のがんばりカード

1シートとした。A児の保護者はA児の学校での様子を日頃から気にかけているため、がんばりカード(図4)には保護者からの励ましのコメント欄を設けた。A児はこのカードの活用を始めてから「今日は大丈夫だったよね」など、自分の行動を自分で省みる様子も見られた。

③ 考察

支援介入後は不適切発言の大幅な減少が見られた(図5)。不適切な発言が減少することで、刺激し合っていた周囲の友達とおしゃべりも減少するというように相乗的に働いた。また、約束を守ったらシールを貼るというがんばりカードでの称賛も児童には効果的であった。A児の行動を分析し検討した行動前の支援や手立てが有効に働いたと考える。

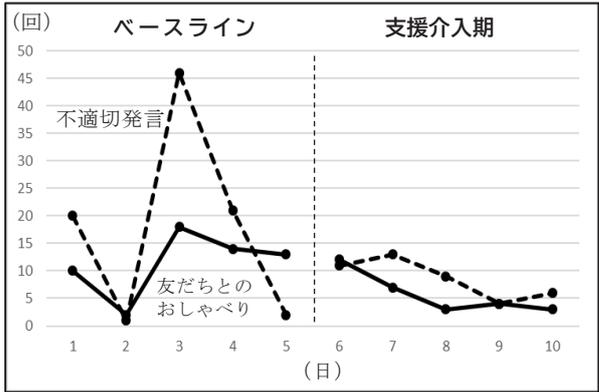


図5 A児の標的行動回数

【事例Ⅱ】知的障害特別支援学級 B児(5年 女児)

① 標的行動は朝の支度・活動にかかる時間。担任からはB児の朝の支度や活動にとても時間がかかる、また、なかなか一人でできないとの訴えがあった。そこで示されている朝の活動が終わるまでの行動観察(持続時間記録法)をビデオ撮影により行った。

② 行動の分析と支援の検討(図6)・具体的な支援

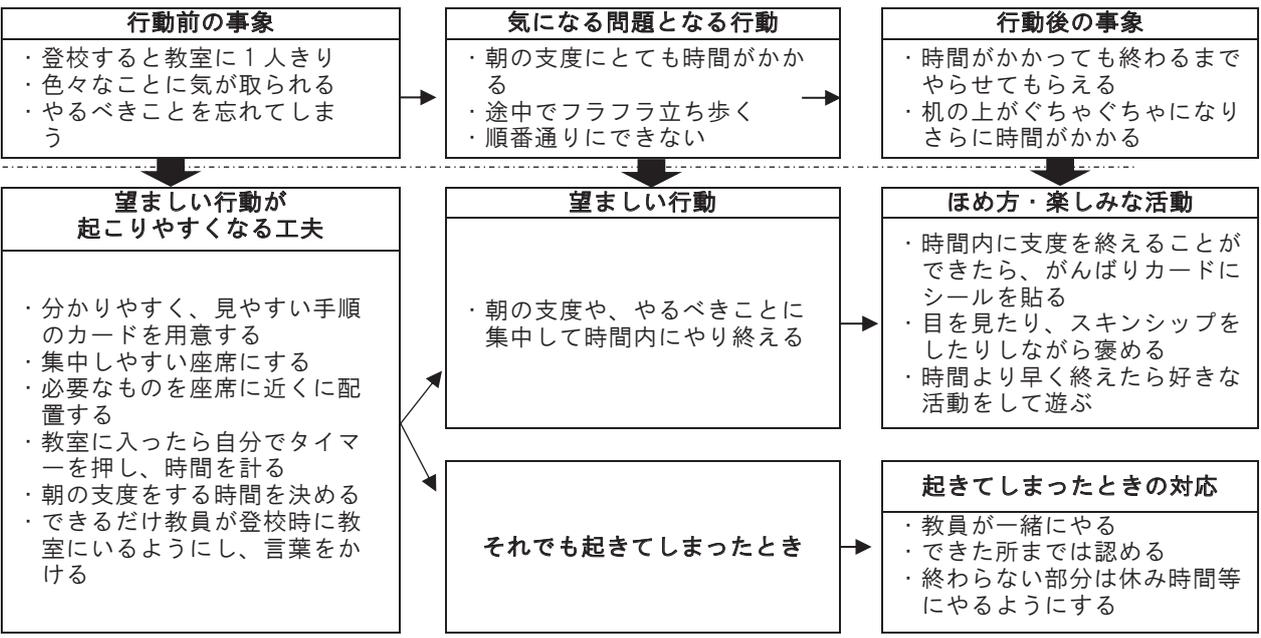


図6 B児の行動分析・支援デザインシート

一事例目同様に、担任との検討を経て、以下の手立てを講じた。具体的な支援は担任が行った。まず、教室内の座席をなるべく集中しやすい端へ配置した。そして、引き出し棚を座席の近くに置き、必要なものは目の届くところへ置くようにした。

また、これまでも朝の活動の手順のカードは用意されていたが、観察によりB児は全く見ていないことが分かった。そこで、手順カードをこれまでよりも大きく分かりやすいものにし(図7)、一つ一つはがしていくと児童の好きなキャラクターの絵が現れる工夫(図8)をした。行動後のがんばりカードはB児の実態から、意欲が続くように5日分で1シートのものとした。また、称賛については、これまでも教員は行っていたが、児童には伝わっていなかったり耳に入っていなかったりする様子が

見られた。B児の名前を呼んで、目を合わせてなど、B児に確実に伝わる称賛を心掛けることにした。

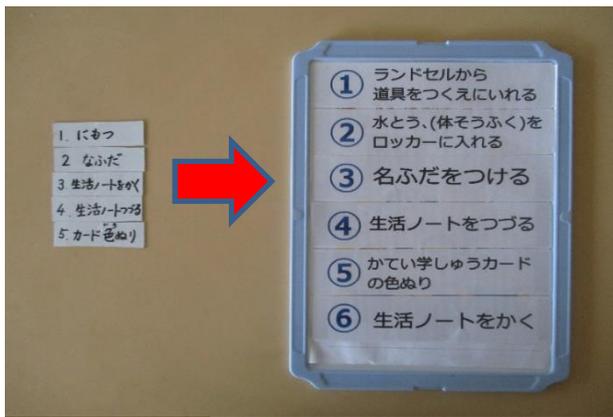


図7 手順カード(大きく分かりやすく)

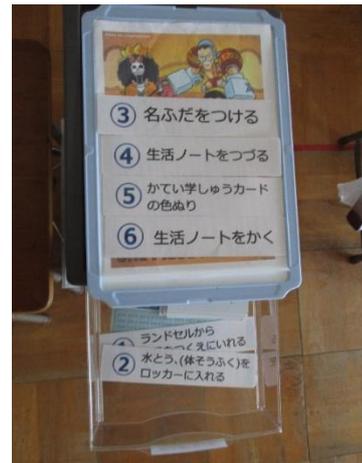


図8 手順カード
(好きな絵が現れる工夫)

③ 考察

図9のとおり、支援介入後は朝の支度や活動にかかる時間が減少した。必要なものを座席の近くに置いたことで、教室内を行ったり来たりし、やることを忘れてしまうということが大幅に減った。また、手順カードを工夫し目の届く所へ置いたことで活用することができ手際よく活動を進めることにつながった。B児の行動を分析し検討した行動前の支援や手立てが有効に働いた。またB児には行動後のがんばりカード(図10)や称賛もとても有効であったと考える。

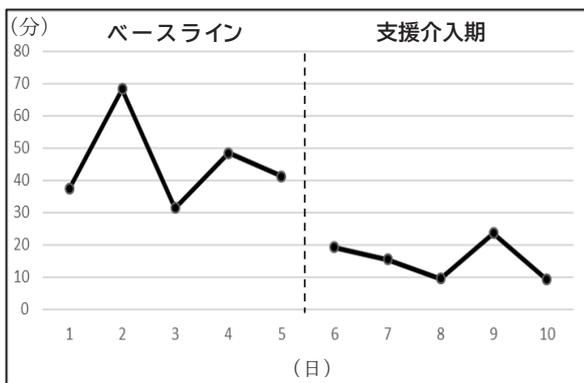


図9 B児の標的行動継続時間(朝の活動にかかる時間)

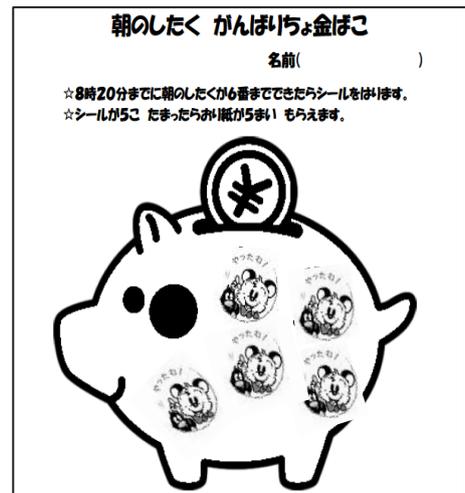


図10 B児のがんばりカード

4 まとめ

通常の学級担任でも理解しやすい簡便なリーフレットを活用したことで、ABC分析の考え方を基にした行動の捉え方や実際の支援につながった。

例えば、Bの行動に対し、適切な行動を引き出すためのアプローチとして、行動前のAでは環境の整備や代替え行動の提示、行動後のCでは個に応じた称賛やがんばりカードの活用など、それぞれの児童に応じた支援を整理して考えることができ、それらが結果として児童の適切な行動の増加と問題行動の減少につながった。

しかし、学級担任が一人で分析から支援の検討を行うことは現時点では限界がある。今回の事例では、小規模校であったため教員同士のコミュニケーションも取りやすく、何かあったらその都度相談し合えたことや、朝の打ち合わせや研修会の折に短時間の説明機会をもつことができたことが、より

有効に働いた。児童に関わる複数名で相談することや、アドバイザー的存在を有効活用することで更に事例を積み上げ、適切な支援や更なる支援の多様性を図れるようにしていきたい。また、ABC分析は個に応じた支援の検討としては十分活用性があるが、通常の学級の大人数の中でも無理なく活用していくには、学級の全児童に対して同時に支援を行うクラスワイドな支援を考えていく必要もあると考える。

5 おわりに

ABC分析（応用行動分析）の考え方は、支援を検討するための一つの方法として、とても有効である。今回作成したリーフレットを多くの教員に活用してもらい、目の前の一人一人の児童への適切な指導や支援を行うための一助となればと考える。

※本レポートは過去の勤務校における実践に基づいている。実践研究の目的・方法を損なわない範囲で、事例児の様子、学年、性別が特定されないよう変更を加えてある。

【引用・参考文献】

- P.A.アルバート/A.C.トルーマン著 佐久間徹/谷晋二/大野裕史訳 『はじめての応用行動分析』 二瓶社 2004
- 三田地真美・岡村章二 井上雅彦監修『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック』 金剛出版 2019
- 大久保賢一 『3ステップで行動問題を解決するハンドブック 小・中学校で役立つ応用行動分析学』 Gakken 2019
- 小笠原恵 『発達障害のある子の「行動問題」解決ケーススタディ やさしく学べる応用行動分析』 中央法規 2010
- 井上雅彦・平澤紀子・小笠原恵編著 『8つの視点でうまくいく！発達障害のある子のABAケーススタディ アセスメントからアプローチへつなぐコツ』 中央法規 2013
- 山本淳一・池田聡子 『応用行動分析で特別支援教育が変わる 子どもへの支援方略を見つける方程式』 図書文化 2005
- 武田鉄郎 『発達障害の子どもの「できる」を増やす 提案・交渉型アプローチ』 Gakken 2017
- 平澤紀子 『応用行動分析から学ぶ 子ども観察力&支援力養成ガイド』 Gakken 2010
- 志賀利一 『発達障害児者の問題行動 その理解と対応マニュアル』 エンパワメント研究所 2000
- 文部科学省 『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』 2012
- 三田地真実他 「問題行動に対応できる教員養成プログラムの開発ービデオ学習教材の効果測定ー」 2016年度『科学研究費助成事業 研究成果報告書』 2017

【イラスト】

『かわいいフリー素材集 いらすとや』 <http://www.irasutoya.com/>